

# 病理診断困難症例の解説

## 2. 原因推定が困難であった亜急性に進行する肺病変の一例

本庄 原 先生, 藤田 久美 先生, 小橋 陽一郎 先生  
(天理よろづ相談所病院医学研究所)

症例 : 68歳 男性

現病歴 : 生来健康な ex-smoker。3月に体幹、両下肢を中心に皮疹が出現し、外用薬の塗布で改善した既往あり。5月初旬より労作時呼吸困難、37度程度の微熱、胸部レ線上両肺に浸潤影を認めた。5月17日に精査目的で入院。

身体所見 : 両側下肺に coarse crackle(+), 表在リンパ節触知せず、肝脾腫(-)

検査所見 : WBC 9700 (Lymph 44%), CRP 0.4, LDH 295, 肝機能・腎機能 WNL, 膠原病のスクリーニング検査陰性、抗 HTLV-I 抗体陰性

5/20 BAL (右 B5b)、回収率 80/150、Lymph 84%、CD4/8 0.1

6/4 外科的肺生検施行 (左 S6)

6/10 末梢血中に病的細胞?

6/14 骨髄穿刺にて骨髄有核細胞に少数の病的細胞?

11/18 背部に小丘疹が出現

問題点 : 外科的肺生検の病理組織学的診断